

視点・論点

PAC3初配備から戦時予行演習へ

MD既成事実化をはね返す〇七年度キャンペーンをとともに！

杉原浩司

航空自衛隊入間基地の第一高射群第四高射隊に初配備されたミサイル防衛(MD)用パトリオットPAC3が四月二三日午前、報道陣に公開された。安倍首相はこの日、午後に官邸屋上へリポートから陸自へリで出発し入間基地に降り立ち、空自輸送機に乗り換えて能登半島地震の被災地を視察。終了後に再び入間基地に引き返し夜八時四〇分に約十分ほどPAC3を視察した後、陸自へリで官邸に戻った。全く大仰な「軍事視察」である。

三月三〇日午前五時前、雨の中、地元人間・狭山を中心とする約二十人が基地正門前で徹夜の抗議を続ける中、PAC3搬入が強行された。警察は人々を隣接する彩の森公園に強制排除、予め招かれた大手マスコミは基地の檻の中で取材していたという。

愛知県小牧市の三菱重工業名工屋誘導推進システム製作所から運ばれてきたのは、レーダー装置一、射撃管制装置一、迎撃ミサイル発射装置五、情報調整装置一、無線中継装置二の計十台。米ロッキード・マーチン製のPAC3ミサイル本体はFMS(フォールン・ミリタリー・サービス) 対外有償軍事援助) で取得され、前日までに秘密裏に米国から同基地に搬入されてしまっていた。FMSとは、日本の商社を介させずに米政府を通して供与を受けるもので、対象は機密性の高い調達品に限られるという。

そして、四月八日には産経朝刊が一面トップで「PAC3偽装作戦」と大見出しのリークを行った。事前に「敵」に迎撃地点を探知されて標的を変えられたりしないように、人間から首都圏の他の配備地や市ヶ谷、練馬などの駐屯地を常時巡回させるというのだ。〇八年三月に首都圏配備が完了するまでの措置とされ、訓練名目で実戦並みの迎撃準備を行い、「敵の目を欺く」といつ。同時に、平素からPAC3の移動を人々の目にふれさせることで、緊急時に突然移動配備されることによる住民のパニック発生を防止する効果をも狙つという。

「これは、まさしく「安心」を口実とした、軍隊による市民への強引なデモンスト

レーションに他ならない。「守ってやるから安心しろ」と軍の存在を見せつけ、慣らさせていく。その先に「やむを得ない」先制攻撃に対する同意調達という真の動機が横たわっている。日常の風景のなかに軍隊の存在を溶け込ませていく「戦時予行演習」に対して、「NO」の声を形にしていくなければならぬ。配備反対も含めて、巡回ポイントとなる首都圏各基地の地元の運動間の連携した取り組みが求められよう。

MD配備に関連した動きは休む間もなく続く。私たちが以前から警鐘を鳴らしてきた「軍事秘密一般保全協定」(GOMIA)が、四月末から五月初頭にも開催される日米安保協議委員会(2プラス2)で最終合意されようとしている。イージス艦の秘密情報持ち出し事件を受ける形で、GOMIA締結が「スパイ防止法」制定へと世論誘導される恐れも高い。

昨年夏の日米安保戦略会議で発題した松村昌廣(桃山大学教授、芦書房刊『軍事情報戦略と日米同盟』著者)は、「秘密保全と情報公開は表裏一体」だとして、スパイ防止法が「民主主義の政治制度には不可欠」だと論じてみせた。先日フジテレビ『報道2001』で石破茂がさっそこの論法を展開した。「軍事秘密のない社会を」といつ私たちの側の対抗論理を説得力あるものとして練り上げながら、GOMIA締結・国会承認への反対を早急に組織化する必要がある。

さらに、MDを大きな口実とする集団的自衛権行使の解禁のための御用機関が安倍によって四月中にも設置され、秋にも結論を出すという。北岡伸一や岡崎久彦らバリバリの「集団的自衛権行使」容認派をメンバーとする「有識者会議」は、まさしく解釈改憲の最終兵器と言えよう。「平和憲法の完全否定」との神奈川新聞(四月八日)の解説見出しはじつと真つ当であり、御用機関の解体に向け強力な動きを作り出す必要がある。国会提出寸前となっている「宇宙基本法案」への反対も含めて、重要課題が目白押し〇七年度キャンペーンを準備していくつもりだ。

(すきははり・こいつ)核とミサイル防衛にNO!キャンペーン)